授業科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ		科目コード	261014	
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学　年	１年
担当教員	松元　愛梨、長岡　小百合				
	実務経験教員（ 有 ・ 無 ） 実務経験内容 愛玩動物看護師 　埼玉県の動物病院で１年、宮崎市の動物病院で５年の診療補助、看護に従事。現場での経験をもとに、事例を出しながら授業を行う 獣医師免許 　県外にて、小動物臨床獣医師、動物園獣医師として勤務。				
開講時期	前期・後期・通年・特別講義・その他			授業コマ数	４５時間
	必　須 ・ 選　択 ・ 選択必須			単　位　数	１単位
使　用 テキスト１	書　名	動物看護実習テキスト			
	著　者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社　エデュワードプレス			
使　用 テキスト２	書　名	愛玩動物看護師の教科書　第４巻　臨床動物看護学			
	著　者	緑書房編集部　編			
	出版社	株式会社　緑書房			
参考図書	動物病院ナースのための臨床テクニック、犬と猫の臨床検査マスターブック ＶＴの臨床検査ハンドブック、動物看護のための小動物内科学 動物病院検査技術ガイド				
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（　　）				

＜授業の目的・目標＞
動物病院で行われる臨床検査のうち、動物看護師が行うことが多い検体検査について学ぶ。各検査の正しい手順や使用する器具の取り扱いを学び、検査によって得られた結果が正常か異常かを瞬時に判断し、獣医師に報告できるようになることを目標とする。

＜授業の概要・授業方針＞
尿、糞便、血液など、動物病院で行われる一般的な検体検査について、それぞれの検査の目的、手技、正常値について理論で説明した後、実際に実習し検査技術を習得させる。

＜成績基準・評価基準＞
別紙参照

＜使用問題集・注意事項＞

＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞
動物臨床検査学Ⅰ、Ⅱ、動物臨床検査学実習Ⅱ

授業科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ

3H/回	授　業　内　容	備　考
1	臨床検査の考え方、検体の取り扱い	
2	尿検査（物理的性状検査、採取法）	
3	尿検査（化学的性状検査）	
4	尿検査（尿沈渣）	
5	糞便検査（直接塗抹法、基本的な染色法）	
6	糞便検査（基本的な虫卵検査、スケッチ）	
7	糞便検査（復習）	
8	血液検査（総血球計算 ）	
9	血液検査（血液塗抹標本の作成）	
10	血液検査（血液塗抹標本の染色、スケッチ）	
11	血液検査（染色、白血球百分比）	
12	血液検査（血液化学検査）	
13	細胞診（細胞の採取、スケッチ、染色法）	
14	骨髄検査（体位、穿刺部位、準備等）	
15	実技試験	

別紙「動物臨床検査学実習Ⅰ」学習成果指標

評価要素項目			実習目標	学習成果評価基準			
				4	3	2	1
汎用的技能		自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	学期末に行う実技試験において、手順や器具の扱い方が実習で指導した通りに行われており、設定時間内に終了できる。	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中は教員の指導を素直に聞き、実践できる。教員や他の学生に対する言葉遣いも適切で、実習にふさわしい身だしなみができている。	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習後のレポートに、実践した内容だけでなく反省や改善点、問題点がわかりやすくまとめられている。また、期限に遅れることなく提出できる。	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問し解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。	実習中は常に受け身で、自分から実践しようとしない。うまくできないことがあっても、自ら練習しようとしない。
自律性と責任感		責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。
倫理観とプロ意識		職業倫理の理解	職業人として社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対しての関心が低いため、やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対しての関心が低い。

※評価方法
上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。
合計28点満点中　23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可
不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。